

# 事業参加にあたって

「東南アジア青年の船」事業にはどのように応募し、乗船に向けてはどのような準備をするのかを紹介する。また、参加青年の声を通して、事業へ参加するにあたっての動機や準備を理解しよう。

そして世界が、ぐっと近くなる。



# 応募→乗船→事後活動の流れ

本事業において、日本青年が外国青年と顔を合わせて活動する本体プログラムは 52 日間であるが、その前後にも研修や準備活動、事後活動を行っている。ここでは応募から乗船、事後活動に至るまでの一連の流れを紹介する。

3月上旬 申込応募〆切 住民票のある都道府県から応募

3月～4月 一次選考 書類選考または面接試験など(選考方法は都道府県による)

5月下旬 二次選考 一次選考合格者は東京か大阪で受験  
※筆記試験(一般教養・小論文)および面接試験(日本語・英語)

8月上旬 事前研修 日本参加青年候補者が初めての顔合わせ  
各係決めやチームビルディングなど事業に向けた準備を開始(6日間)

※この間、互いに連絡を取り合いながら、各係の準備を進める

10月下旬 出航前研修 直前準備(4日間)

10月下旬 本体プログラム  
・日本国内活動  
・船内活動  
12月中旬  
・訪問国活動

12月中旬 帰国後研修 事業の振り返りと報告会に向けての準備(2日間)

2月下旬 事業報告会 事業の成果を報告

※この後は、それぞれ企画した事後活動を実施する

## 企画・実施中の事後活動の一例

- ・岡山県の中学校と連携し、千羽鶴を作成。平和について考える
- ・日本各地での報告会の実施
- ・手紙交換プロジェクト



事後活動に積極的に参加することで、旅を共にした参加青年だけでなく、既参加青年と世代を超えてつながることができます。

嶋村葉月



出会いから別れまで、プレス係はずっと活動を記録し続けます。日本参加青年は最も人数が多いので集合写真の撮影は一苦勞でしたが、SNS や報告会で自分が撮った写真が使われた時は嬉しかったです。

笹岡汐里



# 日本参加青年の声

日本参加青年は出身地も年齢も専攻も様々。どのような経緯でこの事業を知り、参加を決意し、応募したのか。また事業参加に当たり仕事や学業との両立をどのように行ったのかを紹介する。

## 古川 遼

—京都大学 4 年  
総合人間学部



私が SSEAYP に参加した理由は、東南アジアの優秀層と自分を比較したい、新しい視点を知りたいというものでした。シンガポールでインターンをしてきた経験もあり、東南アジアの若者の優秀さ、また東南アジアの成長のスピード感を感じてはいましたが、このプログラムでより体感することができました。

また、自分の中の改善点として、より具体的に参加意義を確認するために事業全体の効果測定基準を事前に定めるべきだったという反省を今後に生かしていきたいと考えています。

## 清水万由

—大阪大学 3 年  
外国語学部ビルマ語



私は大学を 1 年休学して、事業に参加しました。もともと 3 年の後期からミャンマーに留学する予定でしたが、その期間を短縮し事業に参加することを選びました。というのも、交流を通して得られるであろう多角的な国際的視点を通して、ミャンマーを捉えられるようになりたかったからです。事業の中では、言葉や価値観、文化の違いに何度も直面しました。しかし海外青年と同じ時間を過ごすにつれて、むしろその違いや多様性に魅力されている自分に気づきました。この感覚を大切に、将来は東南アジアと日本をつなぐ人材になりたいと考えています。

## 花嶋咲良

—関西学院大学 1 年  
社会学部社会学科



高校 2 年生の時に参加したマレーシアでの植林ボランティアを機に、東南アジア、国際交流へ興味を持ち始めました。52 日に渡る国境のない船上生活ではより密な交流ができました。大学生としての参加は、周りとの経験や知識の差を感じ不安に思うかもしれませんが、選ばれた時点で、平等な参加者の 1 人なのです。様々なダイバーシティーを身近に感じ、一生の仲間を必ずつくることができます。

何事にも恐れず挑戦することが大切です。SSEAYP ファミリーとしてみなさんに出会えることを楽しみにしています。

## 池田昂一郎

—香川大学工学研究科 修士 1 年  
信頼性情報システム工学



私が SSEAYP に応募した理由は、今世界で求められている技術とは何か、ということを知りたかったからです。参加するにあたり苦労したことは、自分自身の偏見と周りの目でした。理系の人は、“国際交流など必要ない、研究室にいるのが美德だ”という考え方があり、周りの人の目が不安でした。

しかし今、参加できて本当に良かったと感じています。様々な方との出会いで、今までの固定概念が壊されて自分の興味に対して素直になれました。異なるバックグラウンドを持つ人々との出会いは、自分の視野を広げてくれます。



寝食を共にしたキャビンメイトは私にとって格別な、日常生活を共に創る盟友でした。バックグラウンドの異なる彼らの“個”に向き合い、より深い相互理解が達成されました。



中井大揮



## 平成 30 年度参加青年内訳

社会人：13 名 大学生：24 名

## 松岡祐香

—門司税関

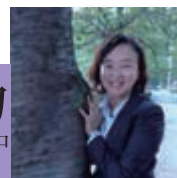


私は現在税関職員として働いています。将来は関税技術協力事業に携わりたいと考えており職場から本事業受験のお話をいただきました。参加にかかる準備と仕事の両立は容易ではありませんでしたが上司の配慮をはじめ、助けを求めればすぐに手伝ってくれる仲間に恵まれ仕事に影響がでることはありませんでした。自分の可能な活動量を把握し1人で抱え込まなければ心配することはないと思います。

本事業を完遂できたことは多くの人の協力のおかげです。それを決して無駄にすることのないよう今後の行動に責任を持ち本事業の経験を生かしていこうと思います。

## 垣内咲乃

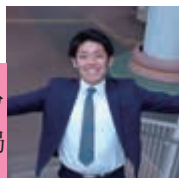
—転職活動中



みなさんこんにちは！一生に一度の貴重な経験を試みませんか？私は、ホストファミリーとして4名の参加青年を受け入れてきました。彼らの”国の代表”としての意識に魅了され、私自身も本事業への参加を漠然と思い描いており、2度目の挑戦で合格することができました。社会人として1年間接客業に従事していましたが、本事業に参加するにあたり退職しました。本事業を通じて、参加青年や寄港地でのおもてなし等様々な刺激を受け、目指す将来像を明確に描くことができました。可能性は無限大です。再スタートを切るには絶好の機会です。

## 松元竜馬

—関東財務局



今回は研修の一環として、この事業に参加させて頂きました。私がこの事業に参加した目的は、さまざまな価値観に触れることで、今後のキャリアや人生を見直すきっかけにしたいと思ったからです。

実際に参加してみて、参加青年たちのレベルの高さに圧倒されながらも今後につながる確かなものを感じることができました。また、ここで得た議論の進め方、表現の仕方、人との関わり方などは、職場でも生かしたいと思っています。

将来は、日本と東南アジアの懸け橋となれるような役割を果たしていきたいと思います。

## 長谷川万里子

—民間団体勤務



私にとって東南アジアは未知の世界であり、そこで新たな価値観に触れたいと思い、本事業に応募しました。社会人としてただタスクをこなす日々に変化を求めたのも理由の一つです。仕事を休む不安もありましたが、先輩に本事業の既参加青年がいたこともあり、職場は快く送り出してくれました。

その分、事業後に周囲と自分自身に還元できる“何か”を得なければとも感じていました。本事業の中で参加青年はそれぞれ“何か”を得るはずです。学生は勿論社会人でも、あなたの“何か”が必ず見つかる52日間にぜひ挑戦してみて欲しいと思います。



参加青年たちはずっと昔からの友達のように感じられました。四六時中一緒にいた仲間故に別れの朝は辛かったです。いつかまた会えると信じて。



大野貴之



## おわりに

日本参加青年団を指す「Japan Contingent」

日本参加青年を指す「JPY (Japanese Participating Youth)」

そのように呼ばれる度、私たちは日本の代表として、海外青年と交流していることを意識させられます。また、国によっては数百倍の競争を勝ち抜いてきた優秀な青年たちと対等に交流し、意見を交わし合い過ごした有意義な時間を、いまこの時に経験できたことに確かな自信と価値を感じています。

45年に渡り歴史を紡いできた「東南アジア青年の船」事業に関わる全ての方々の旅路に思いを馳せ、感謝申し上げますと共に、これから新たにこの旅に加わるあなたと、いつかあなたが感じた [Discovery](#) について語り合える日を心より楽しみにしています。

ユースリーダー 糸圭祐

アシスタントユースリーダー 工藤清香





# パネルディスカッション

参加青年は何を「発見」し、何に「出会った」のか。テーマ「Discovery」に沿って、生の声をお届けします。心の震えを感じた経験や世界が変わって見えた瞬間について、もしかしたら想像を超えるエピソードが聞けるかもしれません。興味を持って頂くきっかけになれば幸いです。



**島田綾香**  
—民間企業勤務

この事業で出会う個性豊かな人々は、自分自身について、そして世界のことについて向き合うきっかけを与えてくれます。



**齋藤盛午**  
—フリーランス通訳翻訳者  
私立高校 韓国語講師

前職の公益財団法人を退職しての参加。  
唯一無二の成長、国内外の仲間とのつながり、そして今後のキャリアへ。  
船を下りたとき、新しい自分への航海が始まります。



**岩佐暢子**  
—上智大学3年  
総合グローバル学部  
総合グローバル学科

「自分は一体どんな人間で、何者になりたいのか」そんな疑問を抱えた人がいるならば、ここでの出会いはその答えの助けになるかもしれません。



**清水歌以**  
—新潟大学2年  
法学部法学科

いま、そのおもいを大切に。  
大きく飛躍するためのステージがここにあります。



**中島秀一**  
—関東財務局

興味を持ったら重く考えずに進んでみましょう！  
きっと新しい世界が見えますよ。



**伊澤咲穂**  
—東京農業大学4年  
国際食料情報学部  
国際農業開発学科

日常では体験することが出来ない貴重な機会を逃さないで！  
自分の人生を変える第一歩を踏み出しましょう！



## 特別寄稿

事業報告会の開催に寄せて、共に参加した海外青年から東南アジア青年の船事業に対するメッセージを頂きました。このような青年たちと共に、52日間の船旅を通じてあなたの「Discovery」を探してみませんか？

It is a great opportunity to create linkages that enable personal and professional growth.

- この事業は繋がりを創造する素晴らしい機会です。

その繋がりは個人の、そしてキャリアの成長につながります。

It is a once in a lifetime experience representing your country to interact and foster relationships with youths from ASEAN and Japan.

- 自国を代表してアセアンと日本の青年と交流し関係を培う、一生に一度の経験です。

SSEAYP gives you the unique opportunity to mingle and bond with young professionals from 11 countries. Share experiences and take the action on social issues!

- 東南アジア青年の船事業は 11 か国の青年たちと語り合い絆を育む、ユニークな機会です。

この経験を共有し、社会へのアクションを起こしましょう！

**Le Mark Balcita Preposi**  
フィリピン・ユースリーダー

**Lim Zhi Wang**  
シンガポール・ユースリーダー

**Charoonpongsakdi Pichaya**  
タイ・アシスタントユースリーダー

心が  
震えた



見えなかったものが  
見えた



世界が  
変わった



*So, throw off the bowlines, sail away from the safe harbor.*

*Catch the trade winds in your sails.*

*Explore. Dream. Discover.*

*-Mark Twain,*

# Discovery